

当社が協賛した第 18 回神戸震災復興フリーイベント「ONE HEART～繋げよう未来へ～」

イベントの様子が WEB ニュースで配信されました。

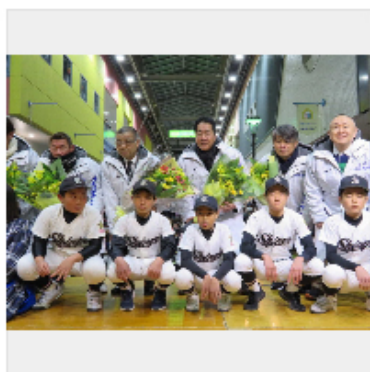
掲載日：2022 年 1 月 17 日

掲載サイト：Yahoo!ニュース（[スポニチ Sponichi Annex](#)）

85年阪神日本一戦士が阪神大震災復興イベントに集結 掛布雅之氏 「決して忘れてはいけないこと」

1/17(月) 20:22 配信 4  

スポニチ
Sponichi Annex



神戸・長田区の震災復興イベントで
地元の野球少年から花束を受けた
（後列左から）仲田幸司氏、掛布雅
之氏、中西清起氏、池田親興氏、松
村邦洋

元プロ野球阪神タイガースの掛布雅之氏（66）、池田親興氏（62）、中西清起氏（59）、仲田幸司氏（57）ら 85年の日本一メンバーが17日、神戸市長田区の大正筋商店街で行われた阪神大震災復興イベントに参加した。

掛布氏は「震災を思い出すのもイヤだと言う方も多いと思いますが、決して忘れてはいけないことだと思います。我々が次の世代に伝えていくことも大切」と訴えた。

当時、炊き出しボランティアを行った際、心を痛めたのは「子どもの笑顔がなくなったこと」と振り返り「街は建物で復興と言えるかもしれないけれど、人の笑い声がなければ本当の復興とは言えない。まだまだ本当の復興とは言えないかもしれませんが、心の笑顔を忘れずに頑張ってください」とメッセージを送った。

掛布氏のものまねで人気のタレント・松村邦洋（54）も出演し、メンバーの集結に大興奮。「これだけのメンバーが元気でそろうのはうれしいですね」と笑顔。ステージでは神戸市のご当地アイドルグループ「KOBerrieS♪（コウベリーズ）」も歌を披露し盛り上げた。

掲載日：2022年1月17日

掲載サイト：Yahoo!ニュース ([よろず〜ニュース](#))

松村邦洋、阪神大震災復興祈念イベントで「恩人」掛布雅之氏と共演

1/17(月) 20:12 配信 5  



イベントに参加した掛布雅之氏(左)と松村邦洋(中央)=神戸市内

タレントの松村邦洋が17日、神戸市内で行われた、阪神淡路大震災の復興祈念イベント「ONE HEART」に出演した。

【写真】黙祷する松村邦洋、掛布雅之氏ら

元阪神タイガースの掛布雅之氏、池田親興氏、中西清起氏、仲田幸司氏といった「レジェンド」がゲスト出演したこともあり、会場は大盛り上がり。新型コロナウイルスの感染対策を十分に施した上で、500人の観客が集まっ

た。

掛布氏とのトークショーや、炊き出しにも参加した松村は「コロナの時期だから、皆さんも大変だと思いますし、まだまだ安心できないと思うんですけど、触れ合うことができて良かったですね」と笑顔。同イベントは3年ぶりの出演となったが、「神戸の方はみんな明るくて、年々活気が戻ってきた感じがします。本当は握手したり、似顔絵書いたり、もっともっと触れ合いたいんですけど、なかなかそれができないのはちょっと寂しいところですね」と話した。

松村にとって掛布氏はモノマネの代表的なレパートリーとあり、「掛布さんが来られるのはうれしいですね」とニッコリ。さらに「マイク（仲田）さんがね、いろいろと大変そうでしたけど元気になられたのが良かった。あと、池田さんが『六甲おろし』に乗って。タイガースの池田さんとして登場されたのはうれしかったです」と相好を崩した。

とりわけ、掛布氏への思いは強く、「若虎で出てきて、タイガースで育っていったというのは憧れですよ。掛布さんがスランプの年は、ファンのみんなも喪に服したみたいな感じだった」と述懐。モノマネを始めたきっかけについては「掛布さんが解説の時に、声がちょっと似てたなと。たけしさんの声と、だいたい質が一緒なんですよ」と明かした。

掲載日：2022年1月17日

掲載サイト：Yahoo!ニュース（[日刊スポーツ](#)）

掛布雅之氏「次の世代にきっちりと伝えることが我々の役割」復興イベント

1/17(月) 20:58 配信 1  

日刊スポーツ



1.17神戸震災復興イベント「ONE HEART」であいさつする掛布雅之氏（撮影・前岡正明）

阪神淡路大震災の記憶や教訓、復興状況などを発信するイベント「第18回神戸震災復興フリーイベント ONE HEART ～繋げよう未来へ～」が震災から27年の17日、神戸市長田区の大正筋商店街で行われた。

【写真】松村邦洋とトークショーを行った掛布雅之氏

参加した阪神OB掛布雅之氏（66）の背番号31にちなんで310食分のカレーの炊き出しがあり、掛布氏のほか池田親興氏（62）中西清起氏（59）仲田幸司氏（57）的場寛一氏（44）山本翔也氏（33）の阪神OB6人がふるまった。

掛布氏は「27年という時間が早いなというのが第一印象。コロナですごく大変な時なので忘れがちかもしれないが、次の世代にきっちりと伝えることが我々の役割。何をもって復興なのか、答えはなんだろうというのも感じたが、みなさんすごく笑顔で、元気づけられました。イベントに参加させてもらって感謝しています」と話した。

掛布氏のものまねで知られるタレント松村邦洋（54）も本人と並んでカレーを配布。松村がご飯とカレーをよそって、掛布氏に手渡すという流れだったが、松村がカレーをこぼしすぎるため、見かねた掛布氏が何度も注意。その様子をものまねで再現した松村は「最後の方はカレーアップスになりましたよ」と笑わせた。松村は「コロナで難しい時期だが、早く全部なくなって、人とたくさん触れ合える時間が来てほしい。あいさつと笑顔にスランプはありませんから」と願った。

そのほか、阪神梅野の登場曲も手がけるBigfumi、神戸初のアイドルユニット「KOBerrieS♪」のミニライブも行われた。【柏原誠】

掲載日：2022年1月18日

掲載サイト：Yahoo!ニュース ([デイリースポーツ](#))

掛布氏 祈り、伝える 阪神・淡路大震災から27年 85年虎V戦士が復興イベント参加

1/18(火) 5:59 配信 3  

デイリー



黙とうを捧げる（左から）松村邦洋、仲田幸司氏、池田親興氏、掛布雅之氏、中西清起氏、的場寛一氏、山本翔也氏（撮影・田中太一）

1995年の阪神・淡路大震災は17日、発生から27年となった。市民らが兵庫県内各地で開かれた追悼行事に参加、地震発生の午前5時46分に合わせて祈りや黙とうをささげた。阪神OBの掛布雅之氏（66）は、神戸市長田区の大正筋商店街で開催された「第18回神戸震災復興フリーイベント ONE HEART～繋げよう未来へ～」に初参加。日本一を成し遂げた1985年Vメンバーの池田親興氏（62）、中西清起氏（59）、仲田幸司氏（57）とカレーの炊き出しやトークショーを行って被災者に寄り添い、特別な時間を共有した。

【写真】おいしそう！炊き出しのカレーを振る舞う掛布氏と松村邦洋

6434人の尊い命が失われた悲劇。当時、大正筋商店街も激震に伴う火災などで大きな被害を受けた。現在の街並みから27年前の悲惨な光景を想像するのは難しいが、まだ人々の心には深い傷が刻まれている。

掛布氏は商店街に設置された特設ステージ上から「27年前の震災を思い出すのは嫌だという方が多いと思いますけど、決して忘れてはいけないことだと思います。我々がきちんとした形で伝えていくことも大切なことだと思います」と被災者の目を見ながら語った。

他のV戦士たちと長田名物ぼっかけカレーの炊き出しに参加。現役時代の背番号「31」にちなんで310食分を配り、トークショーではタレントの松村邦洋と絶妙なコンビネーションで盛り上げた。

「街というのは建物が建って復興という形が見えてくる。ただ、そこに人の笑顔や笑い声がなければ、本当の復興とは言えないと思う。まだまだ復興とは言えないかもしれないですけど、これからも心の笑顔を忘れずに」

新型コロナウイルスの感染拡大が追い打ちを掛け、現在も苦しい日々を送る被災者は多い。27年前に起きた天災を風化させることなく、後世に語り継いでいく。そして、共に苦難を乗り越えていく。

掲載日：2022年1月18日

掲載サイト：Yahoo!ニュース ([スポーツ報知](#))

掛布雅之氏 阪神・淡路大震災から27年「思い出したくないことかもしれないけど、忘れてはいけないこと」

1/18(火) 6:00 配信 3  



阪神・淡路大震災復興支援イベントで炊き出しカレーを配る（左から）掛布雅之氏、松村邦洋ら（カメラ・馬場 秀則）

6434人が犠牲となった1995年の阪神・淡路大震災から27年を迎えた17日、特に被害が大きかった神戸市長田区で「18回神戸震災復興フリーイベント ONE HEART」が開催された。阪神OBの掛布雅之氏（66）＝スポーツ報知評論家＝が初出演し、ともに85年の日本一に貢献した池田親興氏、中西清起氏、仲田幸司氏らと登壇。「思い出したくないことかもしれないけど、忘れてはいけないこと。次の世代の方にきちっと伝えていかなければいけない」と決意を新たにしました。

震災発生時間から12時間後の午後5時46分に黙とうを捧げ、現役時代の背番号「31」にちなんだ310食のぼっかけカレーの炊き出しも実施。お笑いタレントの松村邦洋とのトークショーでは阪神・佐藤輝らの話題などで地元の人に笑顔を運んだ。仲田氏が「辛い思いをなさった方々が一歩でも踏み出す力になれば」と言えば、継続的に参加する松村も「みなさんが楽しそうにされていて、幸せな時間だった」とかみしめた。

掛布氏は震災発生時、大阪府内の自宅で就寝中だった。周辺に大きな被害はなく、兵庫・西宮市内での炊き出しにも参加。その時にボランティアの一人が口にした「子どもたちの笑顔と笑い声がなくなってしまった」という言葉が強く印象に残っているという。

長い歳月を経て、街はきれいになったが、心の復興は続く。「人の笑顔や笑い声がなければ本当の復興とは言えない。心の笑顔を忘れずに『ワンピース』で頑張っていきましょう」。震災を風化させることなく前に進むため、ミスタータイガースは力強く呼びかけた。